

# 7期 jaih-s 報告書

国際保健トレーニング合宿 2012  
～その迷い、その想い、  
明日への一歩につなげる合宿～



## 企画趣旨

### 【テーマ (サブタイトル) : ~その迷い、その想い、明日への一歩につなげる合宿~】

おそらく多くの合宿参加者は、国際保健医療分野での活動に強く興味があり、学びの機会を求めて本合宿に臨むものとする。多くの参加者が将来、「世界のいのちのために働きたい」・「グローバルな視野を持ち保健医療分野に携わってみたい」という強い想いを持ち、同時に「自らの専門性をいかにして現場で活かすのか?」「そもそも本当に自分は国際保健医療に携わりたいのか?」という迷いも抱いていると予想される。

「熱い想い」や「将来への迷い」を抱えた参加者が、この合宿を通して、将来国際保健医療分野でのキャリア形成につながる具体的な一歩を、自信を持って、踏み出してほしい。このような意図を持ち、このサブタイトルを設定するに至った。

### 【本合宿を行う目的】

- ・国際保健分野の活動に強い関心を持つ学生に、多様な側面から国際保健分野にアプローチするための充実した学習機会を提供する。
- ・同分野に興味を持つ学生同士の積極的なコミュニケーションの機会を提供する。
- ・参加者の国際保健分野への学習意欲をこれまで以上に増進させる。

### 【合宿参加者が目指す目標】

#### 1. 合宿前

- ・教科書「国際保健医療学 第二版 (杏林書院)」、事前学習課題を通じ、様々な国際保健医療学を構成するトピックについて最低限の知識を獲得するとともに、合宿本番へのモチベーション向上を計る。 → 【目標 1 : 「事前準備」】

#### 2. 合宿中

- ・予定されている講義やワークショップを通して、今までの経験、事前学習において疑問に感じていたことに自分なりの解答を見出す。

- ・様々な国際保健との関り方の例を学び、自らの将来を考える上で新たな視点を得る。

→ 【目標 2 : 「知る・発見する」】

- ・与えられた問題の解決方法を導く過程や多様なバックグラウンドを持つ参加者との議論を通じ、論理的・主体的な思考力や協調性、さらなるコミュニケーション能力を身につける。 → 【目標 3 : 「ともに考える」】

#### 3. 合宿後

- ・合宿で得た知識・情報・交流関係を活用し、国際保健分野でのキャリア形成につながる具体的な一歩を踏み出す。 → 【目標 4 : 「歩みを進める」】

## 概要

【日時】 2012年3月18日（日）～22日（木）（4泊5日）

※19日は「春の国際保健医療集中講義」と題し合宿参加者の他に4,50名程度参加者を公募した。

【場所】 国立オリンピック記念青少年総合センター（オリセン）

<http://nyc.niye.go.jp/>

【対象】 国際保健医療に強い興味・関心を抱いている学生。  
（専攻問わず・高校生以下除く）

【参加人数】 24名（19日集中講義は外部参加者含め80名）

【参加費用】 25000円 集中講義のみの参加：3000円（昼食含む）

【プログラム】

第1日目(3/18)	～アイスブレイク～
18:00～18:20	参加者受付
18:20～19:00	オリエンテーション
19:00～20:20	アイスブレイク「自己紹介マンダラート」
20:20～20:30	休憩
20:30～21:15	プレテスト
21:15～22:00	レクリエーション1「ここから踏み出せ、最初の一步」
22:00～23:00	移動・入浴

第2日目(3/19)	jaih-s 春の国際保健集中講義@オリンピックセンター
8:30～8:50	参加者受付
8:50～9:00	オリエンテーション
9:00～10:50	「国際保健医療総論」 講師：尾身茂 先生（自治医科大学教授/元WHO西太平洋地域事務局長）
10:50～11:00	休憩
11:00～12:30	「途上国でのヘルスプロモーションを例にした調査・研究と戦略の実践」 講師：湯浅資之先生（順天堂大学公衆衛生学教室准教授）
12:30～13:50	昼食+振り返りWS【1】
13:50～15:20	「途上国におけるメンタルヘルス」 講師：新福尚隆先生（西南学院大学社会医学分野教授）
15:20～15:30	休憩

15:30～17:00	「医療人類学の視点からリプロダクティブヘルス/ライツを考える」 講師:宮地歌織先生(長崎大学男女共同参画推進センター助教)
17:00～17:50	振り返りWS【2】
17:50～18:00	休憩
18:00～19:30	「世界のNCDへの取り組みの現状～MDGsの一步先へ～」 講師:井上肇先生(千葉県保健医療部長)
19:30～19:50	アンケート記入等
19:50	閉会・移動
20:30～22:30	Welcome Party!
22:30～23:30	移動・入浴

第3日目(3/20)	組織運営/東日本大震災を考える
9:00～12:00	ワークショップ「組織運営～ファンドレイジング～」 講師:渡邊清孝先生(特定非営利法人ハンガーフリーワールド事務局長)
12:00～13:00	昼食
13:00～14:30	震災関連講義「災害に備える～東日本大震災の～教訓と復興の課題～」 講師:上原鳴夫先生(東北大学国際保健学教室教授)
14:30～14:40	休憩
14:40～17:00	ワークショップ「国際保健とロジスティクス～東日本大震災を例に～」 講師:中田敬二先生(東亜大学医療学部准教授)
17:00～18:00	夕食
18:00～19:50	マッチング報告会@トレーニング合宿 講師:渡辺学先生(JICA人間開発部) 垣本和宏先生(大阪府立大学看護学部教授)
19:50～20:00	休憩
20:00～21:30	レクリエーション 2「トレーニング合宿かるた大会」
21:30～23:00	移動・入浴

第4日目(3/21)	～SWOT分析を用いた国際保健介入の戦略立案～
------------	-------------------------

9:00～9:40	「計画立案講義」 講師:仲佐保先生(国立国際医療センター)
9:40～9:50	休憩
9:50～10:30	「SWOT分析 講義」 講師:仲佐保先生(国立国際医療センター)
10:30～10:40	休憩
10:40～12:00	SWOT分析 1～S/W/O/Tのリストアップ～
12:00～13:00	昼食
13:00～13:30	SWOT分析 1 発表(6分×4班)
13:30～14:50	SWOT分析 2～S/W/O/Tのクロス分析～
14:50～15:00	休憩
15:00～15:30	SWOT分析 2 発表(6分×4班)
15:30～16:30	SWOT分析 3～戦略の評価～
16:30～17:00	SWOT分析 3 発表(6分×4班)
17:00～18:00	夕食
18:00～19:30	SWOT分析 4～戦略の決定・プロジェクトデザインマトリクスの一部を作成～
19:30～19:40	休憩
19:40～20:40	SWOT分析 4 発表(10分～12分×4班)
20:40～21:40	まとめ・講評・表彰・PDM作成のその後についての簡単な説明
21:40～23:00	移動・入浴

第5日目(3/22)	～今後のキャリア形成を考える～
9:40～11:25	パネルディスカッション テーマ「国際保健医療との多種多様なかわり方」 講師:貫戸朋子先生(元国境なき医師団) 西原三佳先生(特定非営利法人HANDSプログラムオフィサー) 金田晃一先生(武田薬品工業コーポレートコミュニケーション部)
11:25～11:35	休憩
11:35～13:30	キャリアラウンドテーブル(35分×3ラウンド) ※途中10分休憩あり
13:30～14:10	昼食
14:10～14:50	ポストテスト・アンケート記入
14:50～16:30	最後の振り返りWS「その思い、明日への一歩へ」
16:30～17:00	クロージング ～お疲れ様でした～

## 企画内容

### [1] 各種講義（春の国際保健集中講義）

→合宿前半では、

- 1) 国際保健医療の分野において外すことのできない重要な健康問題に関し理解を深める。
- 2) 国際保健医療の現場で諸問題に対しどのようなアプローチが取られているか。その一旦を知る。

ことを目標に、各分野の専門家の先生をお招きし、5つの講義を行った。

国際保健医療分野での重要トピックとして、本合宿では、「ヘルスプロモーション」「メンタルヘルス」「医療人類学」「リプロダクティブヘルス/ライツ」「非感染性疾患（NCD）」を選択した。

### ※参加者の感想

#### 1:「国際保健総論」

○尾身茂先生（自治医科大学教授/元 WHO 西太平洋地域事務局長）

→とても感動した。改めて、医師の道を選んで良かったと思いました。

→WHOでの経験に基づいたリアルな話を聞くことができた。とても貴重な機会だった。



#### 2:「途上国でのヘルスプロモーションを例にした調査研究と戦略の実践」

○湯浅資之先生（順天堂大学公衆衛生学教室准教授）

→ヘルスプロモーションとプライマリヘルスケアの違いについてとてもわかりやすく説明して頂き、勉強になりました。

→もっと詳しくヘルスプロモーションについて知りたい!と思った。ポジティブシンキングと健康のお話が興味深かった。



### 3:「途上国におけるメンタルヘルス」

○新福尚隆先生（神戸大学医学部名誉教授）

→メンタルヘルスが途上国でも問題だったのだと初めて知ることができた。

→あまり聞けない、南太平洋の現状や、社会的背景が精神にもたらすものを具体的に聞いて良かった。



### 4:「医療人類学の視点から、世界のリプロダクティブヘルス/ライツ」

○宮地歌織先生（長崎大学大学院男女共同参画推進センター助教）

→「n=1のパワー」という言葉が印象的だった。今まで考えたことがなかった新しい切り口でリプロダクティブヘルス/ライツを考えることができた。

→マクロではなくミクロの視点で問題を捉えることができた。



### 5:「世界のNCDへの取り組みの現状～MDGsの一步先へ～」

○井上肇先生（千葉県保健医療担当部長）

→過去ではなく、未来の話が聞けて、目からウロコでした！グローバルヘルスの将来を本気で考えるきっかけとなりました。

→「フィールドは足元にある」という言葉に、深く納得させられた。



## [2] ワークショップ付き講義

→合宿中盤では、様々な国際保健医療のトピックを知ることに加え、主体的・論理的思考力と協調性を身につけるため、2種類のワークショップを実施した。そのうち1つでは、SWOT分析の手法活用し、国際協力の現場でどのようにプロジェクトの計画立案が行われているかを疑似体験することができた。テーマとして、「NGO/NPOのファンドレイジング」「バングラデシュにおける母子の健康指標の改善」を選択した。

### ※参加者の感想

#### 1:「組織運営～ファンドレイジング～」

○渡邊清孝先生（特定非営利活動法人ハンガーフリーワールド事務局長）

→具体的なお金のことって、実際聞きづらいので、すごく良い機会だった。

→組織の運営の難しさを知った。また、日本の組織運営も変化していかなければならないと感じた。

→考え方ひとつで、アイデアはたくさん出てくるということが体験できた。



#### 2:「SWOT分析の手法を用いた国際保健医療介入の戦略立案」

○仲佐保先生（国立国際医療センター）

→大変だったけど、達成感がすごかった！本当に！！

→学校では絶対できないことだし、色々な学科の参加者がいたので、問題を見る視点も違い、深かった。

→プロジェクトって、こういう風に作るんだ！ということがわかり、とても楽しむことができた。実生活でも使えるような考え方。





### [3] 東日本大震災関連講義

→本合宿は2011年3月に発生した東日本大震災から約1年後に行われた。震災の記憶を風化させず、震災から得ることができた教訓を今後の国際保健医療協力に生かしていくために2つの講義と1つのワークショップを実施した。

#### ※参加者の感想

##### 1:「災害に備える～東日本大震災の教訓と復興の課題～」

○上原鳴夫先生（東北大学国際保健学教室教授）

→日本人としてこのタイミングで知ることができて良かった。

→新しい視点！文系の自分にとって、とても視界が開けた。

→被災地に行ってみよう！と思った。



##### 2:「国際保健とロジスティクス～東日本大震災を例に～」

○中田敬司先生（東亜大学医療学部准教授）

→ロジスティクスを疑似体験してみて、その重要性を理解できた。

→すべて新鮮な内容で、とても勉強になった。国際保健でも、裏方の仕事が大事ということに気付いた。



#### [4] マッチング報告会

【モデレーター】 ○塚本裕（京都大学医学部医学科4年）

【パネラー】 ○伊藤朝（東京大学健康総合科学科2年）

○三宅千穂（東京医科歯科大学医学部保健栄養学科看護学専攻3年）

【講評】 ○渡邊学先生（JICA 人間開発部次長）

○垣本和宏先生（大阪府立大学看護学部教授）

→本合宿の後、参加者が国際保健医療分野のキャリア形成の更なる一步を踏み出す手助けとして、jaih-s の代表企画のひとつであるフィールドマッチングの紹介を行った。

#### ※参加者の感想

→同世代の人のお話を聞いて、海外に出てみる動機につながった。

→先生方のお話が説得力があった。学生のうちにフィールドを見ておきたいと思った。



#### [5] パネルディスカッション～国際保健医療との多種多様なかわり方～/キャリアラウンドテーブル

○貫戸朋子先生（元国境なき医師団）

○西原三佳先生（特定非営利活動法人 HANDS プログラムオフィサー）

○金田晃一先生（武田薬品工業コーポレートコミュニケーション部）

→国際保健医療への関り方の多様性を参加者が再認識するとともに、自らがどのように国際保健医療に関っていくかを決めるヒントを得るために、様々な分野から3人の講師をお招きし、パネルディスカッションとキャリアラウンドテーブルを行った。

#### ※参加者の感想

→CSR という新しい職を知ることができたのが、とても大きな収穫だった。

→実際に国際保健医療で生きている人は、生き方がカッコいいし、哲学や信念を持っていることがわかった。



## 運営スタッフ

- 班長：別所瞭一（旭川医科大学医学部医学科 3 年）  
○小川薫（順天堂大学医学部医学科 5 年）  
○武智彩（神戸市立外国語大学国際関係学部 4 年）  
○奥村藍（群馬大学医学部医学科 3 年）  
○白石卓馬（大阪大学経済学部 3 年）  
○橋場文香（長崎大学大学院公衆衛生修士課程 1 年）



- ☆中嶋麻子（滋賀医科大学医学部医学科 4 年）  
☆大橋瑞紀（滋賀医科大学医学部医学科 2 年）  
☆小澤萌（宮崎大学医学部医学科 5 年）  
☆加藤茉悠子（北海道薬科大学薬学部薬学科 3 年）  
☆塚本裕（京都大学医学部医学科 4 年）  
☆小淵香織（徳島大学医学部医学科 3 年）  
☆阪口麻由美（大阪府立大学総合リハビリテーション学部栄養療法学科 3 年）  
☆谷口健太郎（東京歯科大学歯学部歯学科 3 年）  
☆石川大平（佐賀大学医学部医学科 5 年）  
☆中瀬愛里（長崎県立大学看護栄養学部看護学科 3 年）  
☆土井紗也香（東京医科歯科大学医学部保健衛生学科看護学専攻 4 年）  
☆堂より子（京都橘大学 看護学部 2 年）  
◎小田垣彩花（滋賀医科大学医学部医学科 1 年）

（※所属は 2012 年 3 月当時 ☆印は集中講義のみの参加 ◎印はマッチング報告会のみの参加）

## 運営スタッフより

今回のトレーニング合宿では、史上最多の 13 名の講師の先生方にご協力頂き、4 泊 5 日に渡り 24 名の参加者の皆様に濃密なプログラムをお届けすることができました。また、2 日目には「春の国際保健集中講義」と題し、56 名の日参加者の皆様をお招きしました。日程、講師数、参加者ともに過去最大であった本企画が無事に終了した際には、企画者一同、安堵と感謝の気持ちで胸がいっぱいでした。

半年の準備期間の中で、たくさんの壁を前にしながらも、スタッフ一同協力し合い、素敵な事務局と OBG の皆様のフォローアップの下、ひとつずつ乗り越えていくことができました。その経験を経て、様々な面で私達自身、成長することができたと感じております。

至らぬ点多々ございましたが、講師の先生方から、たくさんのねぎらいの言葉を頂きました。参加者の皆様からも、この5日間を経て、「将来国際保健医療分野でのキャリア形成につながる様々な経験を持ち帰ることができた。」「合宿での先生や仲間との出会いが、一歩を踏み出す大きな勇気につながった。」との声を頂くことができました。報告書の作成にあたり、企画者として「この合宿の準備・運営に携わることができ本当に良かった。」との想いを新たにしております。この場をお借り致しまして、本企画に惜しめない御協力を頂きました先生方、貴重な時間を私共に託して頂いた参加者の皆様、本企画を応援して下さいました全ての皆様に、心から感謝申し上げ、運営スタッフの声とさせていただきます。

本当に、本当にありがとうございます！

(文責：別所瞭一)